

「共産主義者」「赤」と呼ばれて

昭和三十一年（一九五七）年六月八日 スリランカ国コロンボ

南無妙法蓮華經

アメリカは、きわめて自由主義を標榜する国ではありますが、「平和」に関する自由だけはありませぬ。

国内には、クリスチャンの一派の人々は、相当に平和運動を行っておりますけれど、それらは政府の弾圧を被っております。

海外の平和者の集会には、政府は旅券を発行せないということです。

「平和」は共産主義者の煽動などと言ひ、原水爆を反対に、「平和の守護神」として信心してあります。

日本の政府もこれに追隨するわけでありましょう。

共産主義すらも、「平和」を叫ぶのに、自由主義者がどうして「平和」だけは不自由にせねばならないでしょう。

共産主義者の平和論を、現実の平和論に指導することが必要ではありませんまいか。

日本山の平和論も、最初からはなはだ非難の的となりました。

砂川事件以来、共産党の人々もまた、日本山の平和運動を理解するようになりました。

『大法輪』の「法難」は、最初は共産主義者が執筆したものであります。

同乗の代表団の人々も、共産主義者もおるでしょう。

しかしながら、それらの人々がほとんど皆、日本山の法鼓の妙音を随喜する人々となりました。

自由主義諸国は、『自衛論』の軍備論者、原子戦争論者に指導されつつあります。

核爆発実験中止も共産主義国に先手を打たれるでしょう。

自由主義者はどうして原子戦争の夢から覚めないでしょう。

アイクを首領とする李承晩、蔣介石、日本の吉田茂以来歴代の政府要人等の眠りは深いようです。

沖縄問題にしても、沖縄県民の声に応じて起つ者を、皆ことごとく「共産主義者」「赤」と呼んで、アメリカは弾圧を加えております。

弾圧される者に同情すれば、その人もまた「赤」と呼ばれます。

アメリカの犯す罪惡に同調し、傍觀し、寛容なる者のみが、批難なき人物と言われます。

法華經の行者は、惡口、罵言、杖木、瓦石の諸難を被らねば、その資格はありません。

日本山は、世間の故なき惡口を恐れる者ではありません。

『天鼓』昭和三十一年（一九五七）年六月号「御消息」一九〇頁より

「石の上にも三年」

昭和五十四（一九七九）年十二月八日（臘八）スリランカ国仏足山

南無妙法蓮華經

「石の上にも三年」と言う諺があります。

いろはかるたの一番目に出て来ます。

私は一期の間、この諺を守りました。

一旦、志を立てて、三年努力します。

それで何の効果もなければ、また他に方向轉換もやむを得ませぬ。

貴師は志を立てて、わずかに半年であります。

何の効果がなくとも、退屈すべきではありません。

今、もし退屈するならば、おそらく一生、何を志しても皆、退屈するばかりでしょう。